

審査の結果の要旨

氏名 前田 恵理

本研究は、我が国の一般男女の妊孕性知識について正確に評価し、その背景因子及び第一子出産年齢との関連について検討することを目的としたものであり、18歳から59歳までの一般男女4328名（一般群）及び18歳から50歳までの妊娠を希望している男女618名（妊娠希望群）の妊孕性知識を調査したところ、下記の結果を得ている。

1. カーディフ妊孕性知識尺度日本語版(CFKS-J)の平均得点は、一般群 44.4 (SD = 23.1) 点、妊娠希望群 53.1 (SD = 23.4) 点であり、我が国の人々の妊孕性知識は、同様の先行研究と比較しても高い水準にはなかった。
2. 背景因子について検討したところ、健康関連リテラシーや妊娠・出産への関心が高いほど、妊孕性知識が高いことが示された。
3. 人々は主にマスメディアやインターネットから「年齢と妊孕性に関する知識」を学んでおり、学校で学んだと回答した者は、知識のあった者のうち3%に過ぎなかった。
4. 35歳から44歳までの子供のいる一般男女640名について、10年以上前からの「年齢と妊孕性に関する知識」の有無と第一子出産年齢の関連を分析したところ、10年以上前から知識があったと回答した女性では、35歳以上で第一子を出産した者は2.5%と少なく($p = 0.001$)、第一子出産年齢は他の要因を調整しても2.3 (95%信頼区間：1.1–3.6) 歳若かった。

以上より、本論文は、我が国の一般男女の妊孕性知識について正確に評価し、その背景因子及び第一子出産年齢との関連を明らかにした。本研究は、我が国及び先進諸国で行われている妊孕性知識の啓発に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。